



＝ピクミン効果？＝

最近、代表二人が取り組んでいるのが、「Pikmin Bloom(ピクミン ブルーム)」です。「取り組み」というと聞こえはいいですが、スマホのアプリゲームです！！(笑)

ピクミンは、植物のような動物のような存在。そのピクミンと一緒に散歩をして、お花を植えていくというものです。歩けば歩くほど、たくさん植えることができ、かつ一緒に歩くピクミンを増やすことができます。

ピクミンにはいくつか種類があり、羽のあるピクミン、ちょっと小太りなピクミンなどバリエーション豊か。デコピクミン(デコレーションしているピクミンのことです)もいたりして、とってもかわいいのも魅力の一つ。

そのうえ現実の世界と合成してピクミンの写真を撮ったりできます。(上手くできていますね。)

歩くことが楽しくなり、今は二人で競い合いながら楽しんでいます。現在はK端氏が一步リード。これでダイエットにも拍車がかかる(?)かもしれませんね。

(川東)

1、新年ご挨拶

新年、あけましておめでとうございます。お客様や周りの方々に助けられ、当法人は無事、新しい年を迎えることができました。本年も、スタッフ一同、どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年、今年の干支は「壬寅(みずのえ・とら)」です。干支にはそれぞれ意味があり、「壬寅」は「陽気を孕(はら)み、春の胎動を助く」。冬が厳しいほど春の芽吹き

は生命力に溢れ、華々しく生まれる年になることだそうです。コロナ禍が長く続き、生活様式や仕事形態が様変わりしました。今年はそんな冬を越え、新しい芽を出し、成長の礎になるよう、しっかり根をはり、基盤を固める年にしたいものです。

今年が皆さまにとって、今後の成長の礎を築き、何かを新しく生み出す1年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

2、職場における労働衛生基準が変わりました

「事務所衛生基準規則及び労働安全衛生規則の一部を改正する省令」が令和3年12月1日に公布され、職場における一般的な労働衛生基準が見直されました。

社会状況の変化に合わせすべての働く人々を視野に対応するもので、改正に伴って変更される点は以下のとおりです。

◆照度の作業区分

(※令和4年12月1日施行)

事務作業の区分が変更され、基準が引き上げられました。

- ・一般的な事務作業(300ルクス以上)
- ・付随的な事務作業(150ルクス以上)

◆便所の設備

従来の原則は維持されますが、少人数(同時に就業する労働者が常時10人以上)の作業場において、建物の構造の理由からやむを得ない場合などについての例外が設けられました。ただし、特例ができて、既存の男女別便所の廃止は認め

られませんのでご注意ください。

◆救急用具の内容

作業場に備えるべき負傷者の手当に必要な救急用具・材料について、一律に備えなければならない具体的な品目の規定がなくなり、職場で発生することが想定される労働災害等に応じて、応急手当に必要なものを産業医等の意見、衛生委員会等での調査審議、検討の結果等を踏まえて備え付ける、となりました。

【厚生労働省「職場における労働衛生基準が変わりました ～照度、便所、救急用具等に係る改正を行いました～」】

<https://www.mhlw.go.jp/content/000857961.pdf>



＝季節のコラム＝

お正月のご馳走続きで、胃腸が疲れたところに、ちょうどいいのが「七草がゆ」。

中国には1月7日に7種の若菜を吸い物にして食し、邪気を払うという風習があり、この風習と、日本古来の若菜摘みの習慣が結びつき、奈良時代ごろに七草の羹(あつもの)を食べるようになったとか。

七草の縁起は、芹(せり)…「競り勝つ」、薺(なずな)…「撫でてけがれをとる、」御形(ごぎょう)…「仏様の体」、繁縷(はこべら)…「子孫繁栄」、仏の座(ほとけのざ)…「仏像の台座」、菰(すずな)…「神様を呼ぶ鈴」、蘿蔔(すずしろ)…「けがれの白」。

冬に不足しがちなビタミンやミネラルを含んでいるので、縁起だけでなく実際の効能もあるものです。

(鹿島)



社会保険労務士法人つむぎ

〒540-0012

大阪市中央区谷町2丁目1番22号

フェアステージ大手前ビル7階

電話: 06-4397-3358

FAX: 06-4397-3359

Email: info@sr-tsumugi.or.jp

営業時間

平日 9:00～18:00

HP: <https://sr-tsumugi.or.jp/>

3、コロナ禍で導入した制度を見直すのは今

◆時差出勤 変わらず15%程度

公益財団法人日本生産性本部が行った「第7回 働く人の意識調査」の結果によると、時差出勤をした人は15.1%(10月時点)となっています。2020年5月の初回調査でも16%でしたので、大きな変化は見られません。

◆テレワーク浸透の一方…

また同調査では、テレワーク実施率は22.7%とのことです。様々な調査において「テレワークの効果があつた」という回答がありますが、業務の効率が高まるというよりは、通勤のストレス・疲労がないことが一番大きな理由のようです。

一方で、社内のコミュニケーションや相談が困難・不便、長時間労働につながる、仕事と生活の境界があいまいになることによる過労など、テレワークのデメリットも指摘されはじめています。指示や相談が一度にできない、全員で回していた仕事の一部の人の負担になってしまうなど、改善すべき点があるようです。

◆見直すタイミングは今

コロナ禍で取り組みを始めたさまざまな施策が、自社での業務効率として実際にはどうなのか、その効果や課題について一旦冷静に分析・判断すべきタイミングは、コロナが落ち着き、気持ち的にも来年に向かいつつある今なのではないでしょうか。

社員の働き方を管理する人の重要性はますます高まってきます。社員の意見を反映し、納得感を醸成しながら見直しを進めていきましょう。

【公益財団法人日本生産性本部「働く人の意識調査」】

<https://www.jpc-net.jp/research/detail/005529.html>



4、今月のおすすめ本

今回は、「命もいらず名もいらず(幕末編、明治編)」(著者;山本謙一 出版;集英社文庫)をご紹介します。ご存知の方もおられるかと思いますが、幕末から明治に生きた山岡鉄舟の生涯の小説です。

「幕末の三舟」というのをご存知でしょうか? 勝海舟、高橋泥舟、そして山岡鉄舟のことです。

山岡鉄舟は、幕末に西郷隆盛と駿府で江戸城無血開城の条件について、合意をとりつけることに成功した人物として知られています。勝海舟が西郷隆盛と交渉したといわれていますが、実はその前に山岡鉄舟と交渉していたのです。「無私の人」といわれ、西郷隆盛が残した言葉のなかに、「命も要らず、名も要らず、官位も金も要らぬ人

は始末に困るものなり」というのがあります。これは山岡鉄舟のことだと考えられています。

また、明治には、天皇の教育係に任じられ、天皇の信頼も厚かったとのこと。

現代にはなかなかこういう人はいませんが、「一つのことを貫いて生きる」という気概というもの、見習いたいものですね。

長編ですが、読み応えのある小説です。

(川東)

